

研究タイトル：

Task-based Language Teaching (TBLT) の普及に関する研究実践

氏名： 山下 純一 / YAMASHITA Junichi E-mail: yamajun@hakodate-ct.ac.jp

職名： 准教授 学位： 修士(教育学)

所属学会・協会： 全国英語教育学会・北海道英語教育学会・小学校英語教育学会・日本学生相談学会・函館英語英文学会

キーワード： 英語教育、タスク活動

技術相談

提供可能技術：

- ・検定教科書・自主教材のタスク性評価、および教材開発への学術的助言
- ・学校・教育委員会と連携した TBLT 授業実践の設計・効果検証
- ・タスク活動ポータルサイトを活用した教材提供・共同開発



研究内容： 日本の英語教育におけるスピーキングタスク活動の実践に向けて

研究概要

日本の英語教育現場に Task-based Language Teaching (TBLT / タスク中心教授法) を普及させることを目指す一連の分析・実践・開発活動。検定教科書の speaking 活動の「タスク性」分析から教材条件を明らかにし、現場での実践研究を通じて TBLT 導入の課題を検証。その結果、普及の鍵は「教員の負担軽減」にあることが判明し、現在は教員が手軽にタスク活動を授業に組み込めるポータルサイトの開発に取り組んでいる。

研究の背景・目的

- TBLT は効果的な指導法として国際的に注目される一方、日本の学校現場への普及は十分に進んでいない。
- 検定教科書の speaking 活動が実際にどの程度「タスク性」を備えているかは十分検証されてこなかった。
- 教員が TBLT を取り入れる際の障壁を、実践に基づいて明らかにする必要がある。

これまでの研究成果

1. 検定教科書のタスク性分析

検定教科書の speaking 活動をタスク性の分析枠組みで評価し、TBLT の視点から見た speaking 活動の実情と、実践に求められる教材要件を明らかにした。

2. 教育現場における実践研究

タスク性の高い活動を実際の授業に導入して TBLT を実施し、日本の教育現場特有の導入課題(授業準備の負担等)を明らかにした。

3. 主要な知見：教員の負担軽減の必要性

TBLT を現場に定着させるには、教員が大きな準備負担を負わずに実践できる環境整備が不可欠であることを確認した。

現在の取り組み：タスク活動ポータルサイトの開発

現場教員がすぐに活用できるタスク活動を集約・共有するポータルサイトを構築中。授業準備の負担を軽減し、より多くの教員が日常的に TBLT を取り入れられる環境を目指す(検証済み活動の検索・閲覧、学年・単元別の分類、教員による投稿・共有機能などを検討)。

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)
